



●問い合わせ／町立厚岸病院 ☎52-3145

町立厚岸病院から ～皆さんの健康と暮らしを守る 医療と福祉の継続～

■平成28年度患者数・決算状況 (単位：人)

入院患者		11,838
	内科	10,379
	外科	1,440
	小児科	19
外来患者		49,753
	内科	28,397
	外科	5,694
	小児科	8,051
	整形外科	6,928
	脳神経外科	683

内 訳		金 額
病院事業収益		1,236,670
医療収益		856,688
入院収益		293,595
外来収益		382,531
その他医療収益		61,338
負担金		119,224
医療外収益		379,982
患者外給食・その他医療外収益		143,568
他会計補助金・負担金		236,414
病院事業費用		1,200,848
医療費用		1,131,078
給与費		705,806
材料費・経費		326,213
減価償却費・資産減耗費		96,694
研究研修費		2,364
医療外費用		69,770
支払利息及び企業債取扱諸費		46,872
医療技術員確保対策費		8,927
雑損費及び長期前払消費税勘定償却		13,971
当年度純利益		35,822

※表示単位で四捨五入しているため合計額等は一致しません

活全般を支援します。

平成28年度の 病院事業運営状況の概要

平成28年度における病院運営は常勤医による内科、外科、小児科の常勤5人体制を継続でき、通常診療はもとより救急医療の面でも安定した診療の提供ができたことで、町民皆さんの安心につながったところです。

また、北海道や医育大学、関係医療機関からの支援を受けて、予約診療や消化器検査の円滑な受診体制を確保してきました。さらに、町民の皆さんから要望の多い整形外科診療は釧路赤十字病院から毎週1回、脳神経外科診療は釧路労災病院から隔週1回の定期派遣を受け、安定した医療を提供することができました。

不採算医療の確保と継続

町立病院は公営企業という観点から、経営にあつては独立採算を求められる企業です。しかし、町立病院は自治体病院でもあり、地域で必要とされる医療の中でも民間の医療機関が提供困難な分野である、へき地医療や24時間救急医療、高度医療などを確保し、提供する使命と役割を担っています。

こうした医療は『不採算医療』と呼ばれ、この体制を維持するために国からの交付金のほか、町からの財政

支援を加え、病院経営が成り立っています。

患者数の動き

平成28年度の患者数の動向については、入院患者数で1万1838人で、前年度対比1723人（12・7％）の減となりました。
また、外来患者数では4万9753人、前年度対比414人（0・8％）の増となりました。

単年度黒字、累積欠損金を大きく縮小

病院事業会計における資金不足の指標とされる不良債務については、平成24年度末で全額解消となってい

■補助金と内訳の推移 (単位：千円)		平成26年度	平成27年度	平成28年度
補助金		481,221	478,472	494,950
企業債元利・建設改良		154,229	204,403	197,770
	救急医療	93,865	110,249	110,353
	不採算地区病院対策	152,043	79,958	81,768
	その他	81,084	83,862	105,059
財源内訳		481,221	478,472	494,950
法令基準に基づく国からの交付金額		278,035	293,081	273,602
	法令基準に基づく町からの補助金額	96,727	82,980	99,636
	町の施策に基づく補助金額	106,459	102,411	121,712

※『国の交付金額』欄は、国から示された数値を記載しています

■病院収支と累積欠損金の状況 (単位：千円)		平成26年度	平成27年度	平成28年度
病院事業収益		1,151,750	1,214,145	1,236,670
入院収益		266,359	327,848	293,595
(入院患者数)		(12,392人)	(13,561人)	(11,838人)
外来収益		357,741	400,393	382,531
(外来患者数)		(47,228人)	(49,339人)	(49,753人)
他会計補助金		382,360	325,056	343,618
特別利益		5,798		
その他		139,492	160,848	216,926
病院事業費用		1,448,664	1,172,307	1,200,848
給与費		689,604	665,965	705,806
材料費		111,811	138,830	126,778
経費		199,060	187,427	199,436
企業債利息他		56,144	51,606	46,872
特別損失		254,166		
その他		137,879	128,479	121,956
当年度純利益		△296,914	41,838	35,822
その他未処分利益剰余金変動額		409,792		
減債積立金処分額				5,800
累積欠損金		825,760	783,922	742,300
うち不良債務		0	0	0

に大きな役割を担っています。

また、病気の治療のほかに乳幼児や児童・生徒の検診から一般健診など希望に応じた各種健診、行政の健康づくり事業と連携した予防接種の推進、健やかな生活を送るための健康講話や講演会などを開催するなど、健康維持・予防への取り組みにも力を注いでいます。

医療の進歩や生活環境と健康指向の向上で、高齢化は一層進むとされています。私たちの地域においても今まで以上に元気な高齢者が増え、看護やヘルパーの介助を受けながら、住み慣れた自宅で生き生きと生活できる人が多くなると予想されます。そのため医療と看護、リハビリテーションの充実などの体制維持に努め、福祉施設と連携しながら在宅での生

したことから、同額の改善を図ることができ、年度末で7億4230万円に縮小することができました。

医師および医療スタッフの確保に向けて

病院経営にとって、常勤医師はもとより看護師をはじめとする医療従事者の体制整備は、病院運営と経営の根幹をなすものです。

医師確保の問題は、町立病院のみならず全国的に改善が進まず、特にへき地の自治体病院や診療所において共通した重要課題です。国では医師養成の段階での抜本的な見直しと対策を検討していますが、地方では即効性が期待できず、非常に厳しい状況が引き続いています。

また、看護師などの有資格者確保も改善の傾向になく、昨年から短期の派遣を受けることで運営に支障のないよう補充を行っているところで。医療や福祉はマンパワーとチームワークが大切です。町立病院が担う地域医療の確保や24時間の救急医療を維持するため、北海道などとも連携し、常勤医師の招へいと医療従事者の確保に全力で努めていきます。

老健『ここみ』の利用状況

医療と高齢者福祉に対応した介護老人保健施設『ここみ』（23床）は、

活全般を支援します。

平成28年度の 病院事業運営状況の概要

平成28年度における病院運営は常勤医による内科、外科、小児科の常勤5人体制を継続でき、通常診療はもとより救急医療の面でも安定した診療の提供ができたことで、町民皆さんの安心につながったところです。

また、北海道や医育大学、関係医療機関からの支援を受けて、予約診療や消化器検査の円滑な受診体制を確保してきました。さらに、町民の皆さんから要望の多い整形外科診療は釧路赤十字病院から毎週1回、脳神経外科診療は釧路労災病院から隔週1回の定期派遣を受け、安定した医療を提供することができました。

不採算医療の確保と継続

町立病院は公営企業という観点から、経営にあつては独立採算を求められる企業です。しかし、町立病院は自治体病院でもあり、地域で必要とされる医療の中でも民間の医療機関が提供困難な分野である、へき地医療や24時間救急医療、高度医療などを確保し、提供する使命と役割を担っています。

こうした医療は『不採算医療』と呼ばれ、この体制を維持するために国からの交付金のほか、町からの財政

平成24年度の開設から今年度で6年目を迎えました。老健施設は、町立病院と心と園の中間的な役割を持つ施設です。リハビリを中心に食事や入浴などのサービスを受けながら、カラオケやゲームなどレクリエーションを楽しんだり、入所者同士が交流しながら自立した生活を支援する役割を担っています。

平成28年度決算では、歳入から歳出を差し引いた実質収支が2524万2千円の黒字で、利用状況では、1日当たりの平均入所者数が18・8人の利用となりました。

救急外来の適正な利用を

町立病院では24時間の救急医療体制を整備し、救急患者の受け入れを行っています。これは突発的な症状（激しい頭痛、腹痛、胸痛、外傷等）で緊急処置の必要な患者さんの治療を行うものです。

しかし、『コンビニ受診』と呼ばれる緊急性のない軽症患者の受診もまだまだ見受けられます。救急外来は24時間いつでも受診できる便利な夜間診療ではなく、緊急時に対応するものです。コンビニ受診が増えたと、重症患者への対応に影響が出たり、医師の負担が増して疲弊（ひげん）にもつながりかねません。できるだけ診療時間内に受診をお願いします。